

## 第51回鏡花文学賞授賞式ボランティア活動 ～文学・文芸を通じて地域を考える～

団体名●山田プレゼミナール／代表者名●山田範子（女子短期大学部・准教授）

### はじめに(背景・目的・目標)

鏡花文学賞は、日本の近代文芸に貢献した金沢出身の泉鏡花の功績をたたえ制定された「泉鏡花文学賞」と、金沢市民の文芸活動の充実を図るため制定された「泉鏡花記念金沢市民文学賞」の2つの賞から成る。

文学・文芸を研究する山田プレゼミナールでは、泉鏡花の『高野聖』を読み合ったことから、第51回鏡花文学賞授賞式にボランティアスタッフとして参加し、地域と協力しながら学びを深めたいと考えた。



### 活動内容

山田プレゼミナールの2名の学生が他大学の学生と協力し、会場での受付業務や会場整理を行った。授賞式では、文学賞受賞者への賞状を授与する金沢市長の補佐を行った。

### 成果、結果の考察

ボランティアに参加した学生の感想を以下に示す。

< Aさん >

私は、賞状授与の補佐やサイン本の手渡しなどを担当したのですが、市長さんと受賞者の方々の隣に立つというのはとても緊張をする体験でした。ゼミでは泉鏡花記念館や金沢の文学者の方々にまつわる場所へ訪れるということを行っていましたが、今回もこのボランティアに参加できたため大変貴重な経験になりました。そして、ボランティア活動を通してたくさんの方々から「ありがとう」という言葉をいた

だきました。心が温まる体験になりましたし、参加してよかったと心から思いました。

< Bさん >

今までに、何度かボランティアの経験はありましたが、式典のボランティアをするのは初めてでも緊張していました。しかし、分からないところは職員の方々が優しく丁寧に教えてくださったり、空き時間などで気さくに声を掛けてくださったりしたおかげで緊張はほぐれ、安心して本番に臨むことが出来ました。

ボランティアに携わった方々のあたたかさに触れ、今まで以上に地域に貢献したいと強く思いました。鏡花文学賞の授賞式のボランティアを通して地域に深く関わることで、地域に貢献すると共に、地域の魅力を再発見できる貴重な経験ができました。



学生2名の感想にあるように、授賞式来場者との交流、金沢市文化政策課の方々にご指導いただいたことによって、地域とゼミの学びをつなぎ、地域貢献することができたと考えられる。

### 今後の課題、展望

文学・文芸の話題をきっかけに主体的に地域の方々と交流できるようになることが課題である。これからも泉鏡花をはじめとする金沢に縁のある文学者や文学作品に親しみ、ゼミの学びと地域をつなぐ活動を積極的に模索し、参加していきたい。